

# 造形制作班

## <造形制作班メンバー>

No.07 大平 真輝	No.11 後藤 晃誠	No.12 斎藤 巧	No.13 佐々木 一心
No.14 佐々木 輝心	No.15 佐々木 心翔	No.21 高橋 由衣	No.28 中本 大輔
No.29 橋本 暖偲	No.31 久次 慶子	No.33 松田 ひかり	No.37 渡邊 心花

男子 8 名、女子 4 名、計 12 名  
担当 郷湖 俊平 只野 悟



## <はじめに>

私たち造形制作班は、釜神様と表札の制作を行いました。釜神様制作では、加美町文化協会「木彫りの会」の小野惇夫さんに指導していただきました。一人ひとりが真剣に取り組み、目標としていた「古工展」「古川駅」での展示を、無事成功させることができました。釜神ノートには、見学した人たちからの様々な感想やお褒めの言葉をいただき、とても嬉しくなりました。

釜神様制作に続いて、住宅の門や玄関先に設置されている表札の制作を行いました。表札制作では、佐信木材株式会社の佐藤友紀さん（建築科 60回生）に指導していただきました。

欅の木を使った表札制作では、各自それぞれの字体で名字を彫ることで、個性を出すことができました。完成した表札を飾るのが楽しみです。

2つの制作を通して、工具類の使い方やものづくりの楽しさ・奥の深さを知ることができました。



# R06 造形制作班 活動計画

## 2024 造形制作班 活動予定表

宮城県古川工業高等学校 建築科

大平 真輝 後藤 晃誠 斎藤 巧 佐々木 一心 佐々木 輝心 佐々木 心翔

高橋 由衣 中本 大輔 橋本 暖悶 久次 慶子 松田 ひかり 渡邊 心花

郷湖 俊平 只野 悟

外部講師 小野 悅夫

回数	日付	曜日	項目	学習内容	講師	備考
1	6月10日	月	釜神1	ガイダンス、小口コーティング、長さ調整		
2	6月20日	木	釜神2	墨付	講師①	
3	6月24日	月	釜神3	墨付、眼まわり彫り	講師②	
4	6月27日	木	釜神4	眼まわり彫り、眉形彫り	講師③	
5	7月1日	月	釜神5	眉形彫り、額彫り	講師④	
6	7月8日	月	釜神6	眉形彫り、額彫り	講師⑤	
7	7月18日	木	釜神7	鼻下まわり彫り（授業時間：9：45～11：35）	講師⑥	
8	8月26日	月	釜神8	鼻・口まわり彫り	講師⑦	
9	8月29日	木		職場見学会		
10	9月2日	月	釜神9	口まわり彫り	講師⑧	
11	9月5日	木	釜神10	口・耳まわり彫り	講師⑨	
12	9月9日	月	釜神11	耳・頬まわり彫り	講師⑩	
13	9月12日	木	釜神12	鼻彫り	講師⑪	
14	9月17日	火	釜神13	裏彫り、全体調整	講師⑫	
15	9月19日	木	釜神14	裏彫り、全体調整	講師⑬	
16	10月3日	木	釜神15	全体調整、黒塗り1回目	講師⑭	
17	10月7日	月	釜神16	全体調整、黒塗り2回目	講師⑮	
18	10月10日	木	釜神17	ヒモ通し、調整（授業時間：10：45～12：35）	講師⑯	
19	10月16日	水	釜神18	ヒモ通し、調整、反省会	講師⑰	
20	10月17日	木	表札1	表札原稿作成		
21	10月21日	月	表札2	彫り方	講師①	
	10月25日	金				
	10月26日	土		古工展		
22	10月31日	木	表札3	彫り方	講師②	
23	11月7日	木	表札4	彫り方、カシュー塗	講師③	
24	11月11日	月	表札5	カシュー塗、バリ取り	講師④	
25	11月14日	木	表札6	バリ取り、水性塗料塗、仕上げ		
26	11月18日	月	表札7	仕上げ、反省会	講師⑤	
27	11月21日	木		報告書、プレゼン、動画制作		
28	12月2日	月		報告書、プレゼン、動画制作		
29	12月9日	月		報告書、プレゼン、動画制作		
30	12月12日	木		報告書、プレゼン、動画制作		
31	12月16日	月		釜神様 古川駅展示作業（展示期間：12／16～1／9）		
32	12月19日	木		班内 発表会リハーサル		
33	1月9日	木		釜神様 古川駅展示 撤去作業（展示期間：12／16～1／9）		
34	1月16日	木		発表会準備、リハーサル		
35	1月20日	月		発表会リハーサル		
36	1月23日	木		課題研究発表会		
37	1月27日	月		実習室片付		
備考		古川駅展示（12/16～1/9）、ホテル白萩展示（11/9～12/8）				

# 釜神様制作

## 〈釜神様について〉

釜神様は、火除け魔除けの守り神として、火を使う場所や玄関に祀ります。主に宮城県北地方と岩手県南地方、いわゆる旧仙台藩領域では、家屋の新築の際に大工の棟梁や左官の親方が余った材料でつくり、建築主に寄贈する風習がありました。

釜神様はカマドのある薄暗い土間で、憤怒の形相で見据えており、家内安全の守り神としても崇められていました。さらに、小さい子供たちには、「悪いことをすると釜神様が睨んでいるぞ」と戒めに利用され、情操教育にも非常に役立つ存在だったと言われています。

## 〔古工展〕



## 〔様々な釜神様〕



# 釜神様 制作工程

## ① 皮剥き・成形

専用の器具を使って、クリの樹皮を剥きました。その後、半円柱に成形するため、墨付けを行いノミや電動カンナで削りました。



## ② 小口コーティング

半円柱に加工したクリ材の乾燥を防ぐために、木工用ボンドを水で薄めて使用して、小口に新聞紙を貼りました。



## ③ 墨付け・眼彫り

墨に従い、眼を深く彫り下げます。深さ・大きさ・形は、材料の大きさで異なるので個性が大きくです。



## ④ 眉形・額彫り

墨に従い、眉の大きさとまわりの部位の深さに気を付けて、浮き上がるよう彫ります。額は、半球形状に浮き出るように彫ります。



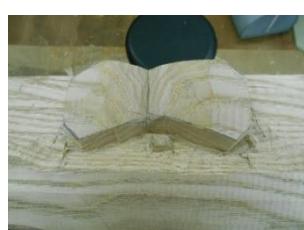
## ⑤ 鼻彫り

鼻は、小鼻のふくらみをはっきり表現できるように彫ります。次工程の口の墨付けがしやすいように、滑らかに仕上げます。



## ⑥ 耳彫り

クリ材の両端からそれぞれ 3cm の幅をとり、耳の上下に、ノコギリで切り込みを入れます。その後、周囲を彫り下げる耳の形にします。



## ⑦ 口彫り

口の形状は特に決まりがないので、人によって様々です。口が前に突出し、立体的に見えるように、しっかりと彫ると迫力が増します。



### ⑧ 頬彫り

頬の形を墨付けして、墨に従って彫り進めます。丸くふくらみを作るようになるのがポイントです。



### ⑨ 裏彫り、耳・鼻穴あけ

クリ材の裏側にチェーンソーで縦横に切り込みを入れた後、ノミを使って裏彫りをします。終わったらドリルを使って、耳と鼻に穴をあけます。



### ⑩ 仕上げ

ノミを使い、表面の凸凹を少なくしていきます。目、鼻、頬などは平のみで丸みをより出しています。溝にたまつた木くずも取り除きます。



### ⑪ 黒塗り

墨汁と木工用ボンドを混ぜたものを、表面に塗ります。塗る回数が増えるほどつやが出ます。木工用ボンドには、割れ止めの効果もあります。



### ⑫ ヒモ通し

耳の穴に麻ヒモを通し、輪を作ります。麻ヒモの先の部分は、櫛等でほぐして、ふさふさにしたら完成です。



### 完成



# 釜神様制作を終えて

No.7 大平 真輝



釜神制作を通して、釜神の作り方や歴史、道具の使い方などをより深められるいい機会になりました。大きな原木の状態からどのように作っていくのか最初は想像もつかなかつたのですが、講師の先生方の様々なアドバイスによって自分の納得のいく釜神をつくることができました。この貴重な体験を卒業後は仕事にも活かしていきたいです。

No.11 後藤 晃誠



初めて釜神を見たときは意外とできそうだなと感じましたが、実際に彫り始めると木の形が丸いのでノミが入らなかったりしてみんなの流れについていけませんでしたが、諦めずに彫り続けるうちにノミの扱いが上手になってきて釜神制作が楽しくなりました。釜神制作を通して、道具の使い方や歴史について知ることができました。ありがとうございました。

No.12 斎藤 巧



釜神制作を通して、釜神の歴史や伝説を知ることができました。この釜神は後世に伝承していかなければならない大切な文化です。それを「木彫りの会」の皆さんのおかげで私たちが知るきっかけになり、最初は不安だったノミの使い方も少しづつ上達し、モノづくりの魅力にも気づくことができました。完成した釜神は家の前に置き、近所に広めていこうと思います。

No.13 佐々木 一心



釜神制作を通じて、道具の使い方や釜神についての歴史を学ぶことができました。大きく削る部分が多く、栗の木ということもありかたくて非常に苦戦しましたが、徐々に釜神の顔つきが変わっていく楽しさを感じました。制作した釜神は自宅の玄関に飾り、家を守ってもらいたいと思います。

No.14 佐々木 輝心



木彫りの会の方々、先生方のおかげで妥協することなく金神を作り終えることができました。約4ヶ月の製作期間で自分の力で彫ることができて、ものづくりに対する自信のようなを感じることができました。自分自身の手で金神ほどの大きさの木を彫ること、加工することはこの先無いかと思います。貴重な経験でした。ありがとうございました。

No.15 佐々木 心翔



金神制作を行ってみて、ノミを初めて使うので上手くできるか不安でしたが、講師の先生方が丁寧に教えてくれたおかげで自分の満足のいく作品を作ることができました。力のいる作業や工夫して彫っていくところもあり苦労しましたが、完成した時にはとても達成感を感じることができて良かったです。

No.21 高橋 由衣



金神を作りあげることができ本当に嬉しかったです。最初は、大きな栗の木があの金神になることに驚きが隠せませんでした。ですが、徐々に徐々に形が出来ていくうちに「すごい！不器用な私でも、ここまでできるなんて！」と思いました。完成時の達成感は、今でも忘れられません。失敗しながらも、先生方の協力のもと、無事終えられて良かったです。

No.28 中本 大輔



金神制作を通して、金神の作り方や歴史を知ることができました。ノミを使うのが久しぶりで上手く作れるか不安でしたが、金神を作るときは思い切って作業した方が良いと講師の先生のアドバイスがあったので失敗を恐れずに作業することができました。金神は彫る人によって顔つきが変わるので彫り進めていくのが楽しかったです。制作した金神は玄関に飾りたいと思います。

No. 29 橋本 暖偲



最初はあの大きな栗の木からどのようにして金神ができるのか想像もつかなかったのですが、授業が進むにつれてどんどん形になっていく過程を見て楽しく作ることができました、金神の歴史や由来など深く知ることができたいい機会でした。この貴重な体験を今後の生活につなげれるようできたらなと思います。

No. 31 久次 慶子



金神制作をしてみて、ノミの使い方に慣れず苦戦することができましたが、小野さんをはじめ講師の方のご指導のおかげで納得のいく金神を作ることができました。作業のほとんどは力がいる作業で大変でしたが、とても達成感を感じることができました。課題研究を通して、金神の文化や歴史について知識を深め、普段体験できない経験ができたのでよかったです。

No. 33 松田 ひかり



金神制作を通して、初めは使ったことのない道具ばかりで怪我をしないか緊張していました。しかし、講師の先生方の指導もあり楽しくきれいに仕上げていくことができました。初めは慣れなかったノミの扱いも次第に慣れ、力の加減や彫る向きなどを工夫して作業を進めることができました。さらに小野さんの講話では、金神の歴史や由来なども知ることができたくさん学ぶことができて良かったです。

No. 37 渡邊 心花



金神制作を通して、金神の歴史を深く知れたとともに、ものづくりを行う職人さんの大変さにも気づくことができました。最初は、ノミを使って慣れない道具での作業に苦戦しました。ですが、工程が進むにつれ、コツを掴み楽しんで作業を行う事ができました。途中、彫り方が難しくて講師の方に教えてもらいましたが、無事完成できてよかったです。お家で大切に飾ろうと思います。



# 表札制作

## 〈表札について〉

表札とは、その家に住む者の名を記して、門や玄関などに掲げて示す札のことです。表札の文化は、古くからあるもので戦国時代までさかのぼります。

しかし、本格的に普及したのは、大正12年9月に発生した関東大震災以後と言われています。それまでは士農工商の身分制度が固定し、武士以外の者の名字・帯刀は禁じられていました。明治3年の大政官布告で平民も名字を名乗ることが許され、明治8年、徵税・徵兵のために、国民が名字を持つことが義務となり、これらのことから、表札が普及しはじめました。関東大震災によって、人口移動や住宅の再建が盛んになってきた時に、ほとんどの民家に表札が付けられ、後の生活に不可欠なものとなりました。

表札の素材は、昔から木製のものが一般的ですが、現代においては天然石やセラミック製、金属製のものも増えてきました。

今回は、標準寸法の縦212.1mm×横90.9mm×厚さ30.3mmで制作しました。なぜ、このような半端な数字になるのかというと、木造建築の分野では、現在も昔ながらの尺貫法が多く使われています。そのため、メートル法から尺貫法に換算すると、今回制作する表札の寸法は、縦7寸×横3寸×厚さ1寸となり、2で割り切れない奇数になっています。この尺貫法の寸法には、家屋を新築した家族がバラバラにならず、さらに家系が永遠に続くようにという願いが込められています。



# 表札 制作工程

## ① 原稿作成

自分が彫る名字を、パソコンを使い書体とサイズを選んで印刷する。



## ② 養生

材料に塗料のカシューが染み込まないように、養生テープを貼る。その上に両面テープを貼り、原稿を貼る。



## ③ 切り込み

クラフトナイフを使い、原稿の文字の縁に沿って切り込みを入れ、文字の部分を剥がす。



## ④ 彫り方

彫刻刀を使い文字部分を彫る。カシューが綺麗に塗れるように、可能な限り深く、表面は滑らかに彫る。



## ⑤ 塗装

彫った名字の中に筆でカシューを塗る。最低二回塗る。乾燥後養生テープを剥がす。仕上げに水性塗料を数回塗る。



## 完 成



# 表札制作を終えて

No.07 大平 真輝



使い慣れた彫刻刀を使い、今回表札を作りました。今では、僕の大平という姓はとても気に入っていて、それを再確認できるいい機会となりました。制作にあたっては、とても難しい場面もありましたが、いろいろ工夫しながら完成することができました。講師の友紀さん、ご指導いただきありがとうございました。

No.11 後藤 晃誠



プリントした文字に合わせてカッターで切り込みを入れ、切り取ったところだけ彫刻刀を使って彫っていく作業でしたが、少しのミスで文字のバランスが崩れてしまうのでかなりの集中力を必要としました。表札はとてもかっこよく仕上げることができたのでうれしいです。表札制作を通して集中力が上がりいました。ありがとうございました。

No.12 斎藤 巧



この表札制作の実習を通して彫刻刀の使い方や塗料の特性を学ぶことができました。また、細部への配慮や丁寧な仕上げの重要性を再認識しました。このモノづくりの魅力を忘れず、大人になっても丁寧な仕事に励んで行きたいと思います。完成した表札はぜひ家の玄関に飾りたいと思います。

No.13 佐々木 一心



思い切った判断と技術が必要な金神制作とは違い、表札制作は繊細な作業が多くて、僅かな作業も時間を要し苦労しました。画数が少ないですが、自分の名前を彫る機会はないので貴重な体験をすることができました。納得のいく作品ができたので、一人暮らしの時に部屋に飾りたいと思います。

No.14 佐々木 輝心



釜神様制作とは違い細かい作業が多くきれいに完成させられるか心配でした。体を大きく使うような工程はありませんでしたが、釜神様制作と比べて一つの小さなミスが大きなミスにつながる点や、危険な薬品の使用など決して安易なものではありませんでした。だからこそ、完成した表札には特別な愛着が湧いています。とても貴重な時間でした。

No.15 佐々木 心翔



彫刻刀を使うのは小学生の時以来で久しぶりだったけど上手く彫ることができました。釜神様制作での経験を生かすことができたので良かったです。初めての表札作りでしたが、講師の佐藤さんがとても面白く、楽しく作業を進めることができました。

No.21 高橋 由衣



表札を作るにあたって、久しぶりに使う彫刻刀に対する「ドキドキ」同時に初めて造る表札に対する「ワクワク」がありました。初めの授業では、(こんなに硬くて難しいの？！)と驚きを隠せませんでしたが、どんどん彫り進めていくうちに彫ることへの「楽しさ」が増していました。大変なことも多かったですが、怪我をせず終えることができ良かったです。

No.28 中本 大輔



表札制作を通して、彫刻刀で木を彫る作業は初めてで木が固く彫りにくかったり、滑って文字の外を彫ってしまいそうになったりと思っていたよりも難しかったです。慣れてくると彫る力加減や角度を変えてスムーズに作業を進めることができました。講師の佐藤さんから建築の豆知識などを聞き、今まで知らなかった知識を知ることができて良かったです。満足のいく作品に仕上げられたので良かったです。

No.29 橋本 暖偲



最初は彫刻刀の使い方が難しく、授業が進むにつれて上達していったので楽しかったです。表札も初めて見るものでイメージが全く湧きませんでしたが、講師の友紀さんから話を聞き初めてイメージすることができました。彫刻刀を使うときは気を付けないと簡単にけがをしてしまうので取り扱いに気を付けました。ご指導いただいた友紀さんは感謝の気持ちでいっぱいです。これからはこの筋肉という文字を見ながら筋トレに励みたいと思います。

No.31 久次 慶子



私は画数の多い自分の名前を彫ったので細かい作業が多くとても苦労しました。しかし、授業の回数を重ねていくうちにスムーズに彫れるようになり、きれいに仕上げることができました。講師の佐藤さんはとても面白く、建築の豆知識は興味深い話ばかりで、勉強になりました。完成した表札は大切に自分の部屋に飾りたいと思います。

No. 33 松田 ひかり



表札制作を通して、久しぶりに使う彫刻刀やデザインカッターに金神様の時とは違う緊張感がありました。文字を切り抜く作業では、デザインカッターの扱いに慣れず、思い通りに出来ないこともありました。彫刻刀で彫っていく作業では3本の彫刻刀を使い分け、なんとか彫り終えることができました。表面に塗った水性塗料は、色が濃くなりすぎないように様子を見ながら塗装して、綺麗に仕上がり納得のいく作品となりました。

No.37 渡邊 心花



表札彫りを通して、表札を彫ることの楽しさが分かりました。みんなの家に何気にある表札ですが、それにも数多くの歴史があります。友紀さんの話はとても興味深かったです。自分で文字、書体から選んで、彫り方も工夫しながら作業を進めるのは楽しかったです。この経験を通して、ものづくりを誰かに教えてあげられるようになりたいなと思いました。納得のいく作品が完成できて良かったです。

